

「学力向上実行プラン」

研究テーマ

小中学校9年間を見通した、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
(アクティブラーニング視点に立った授業改善)

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
大島 浩代 (研修主任・2学年主任・理科主任)	校長:大島 千文 教務主任・3学年主任:岡島 三千代 1学年主任・数学主任:篠原 貴道
	教頭:倉橋 誠一 国語主任:門田 亮

校長

大島 千文



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	ステップアップテストの結果から、国語科の「言語事項」については、知識の定着が見られる。数学科の「数と式」「図形」「関数」の領域について成果が見られた。	・ 自主学習ノート等を活用して、予習・復習をし、基礎・基本的な学習をくり返し行う。 ・ 基礎・基本的学習にとどまらず、いろいろな場で知識を活用しようとする意欲や自主性がある。	・ 全国学習調査、ステップアップテスト、基礎学力テストなどの平均正答率を県平均以上にする。 課題の提出率を90%以上にする。	・TTを活用した個別指導を充実させ、つまずきがみられる単元の課題に取り組ませる。	・数学の時間に、毎時間授業の最初に計算プリントを行い、基礎的な知識の定着を図った。 ・夏休みに全学年、3～5日間補充学習を行った。	・ステップアップの結果を県平均と比較すると、1年国語(+4%)、数学(+7%)、2年生国語(−4%)、数学(−1%)の結果になった。 ・全国学力学習調査では、国語A(−5%)国語B(−9%)数学A(−3%)数学B(−14%)と言う結果になり、基礎学力の定着が今後の課題である。
課題	学力の個人差が大きい。 受け身的な学習が定着しており、自主的に興味・関心をもって学習を進める姿勢を持たせる必要がある。また、課題に対して粘り強く取り組む姿勢が不足している。	・ 漢字の読み書きや語句の定着にむけた問題や、基本的な問題にくり返し取り組ませる。 ・ 発表方法等の指針や授業の約束を明示し、言語環境を整える。 ・ 「めあて」「振り返り」を位置づける授業を行い、わかりやすい授業を行う。	・ 単元ごとの小テストを実施し、つまずいている生徒に対して、放課後や昼休みに補充学習を行う。 ・ 長期休み中に補充学習を行う。		評価 B	次年度における改善事項 ・ステップアップや全国学力学習調査の国語や数学の正答率が県平均より下回っているので、学習状況の改善と家庭学習の改善を図り、家庭での協力を呼びかける。 ・各教科、単元ごとに小テストなど確認テストを実施し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。 ・来年度も引き続き校内研修で、研究授業を行い、授業改善を図る。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	素直に自分の考えを発表したり、与えられた課題に意欲的に取り組み、順序立てて課題を解決することができる。	・ 根拠や理由を明らかにしながら、自分の意見や思いをわかりやすく伝えることができる。 ・ 課題の解決に向けて、情報収集・整理・分析をし、自分の言葉で発表する力が身についている。	・ 定期テストにおける記述式の問題の割合を増やしたり、字数を決め、自分の考えをまとめる問題の正答率60%以上をめざす。 ・ 字数を決めて、自分の考えをまとめる問題や国語の作文試験で60%以上の得点をとる生徒の割合が80%をめざす。	・ 記述式の問題を継続的に取り組ませる。	・英語の時間に、フランスの子どもたちとビデオレターを交換したり、ブラジルとアメリカの子どもたちとスカイプを通して、自分たちのことを伝えたり、相手に質問などを積極的に行った。 ・1年生の防災学習で、村の赤十字奉仕団や防災対策官の前で、ポスターセッション形式で学習した成果や自分たちの考えを発表した。 ・2年生のふるさと学習で、村の活性化について調べたことを村役場の人たちの前でプレゼンを行い、自分たちの考えを発表した。	・定期テストにおいて、記述式の問題の割合を上げた結果、全国学習学力調査の理科の記述式が県平均と比べ、+6%の成果を得ることができた。
課題	各課題に対して粘り強く取り組むことが苦手な生徒がいる。文章を読み取る力、記述式の問題に対して、自分の考えを文章で表現する力や資料を活用する力をつけることが課題である。	・ スピーチや役割演技、討論など、個人や小グループなど様々な形式で発表させる。 ・ 記述式の問題を説くポイントを指導し、書くことに慣れさせる。 ・ 中学生による小学生への絵本の読み聞かせを定期的に行う。	・ 学校行事におけるお礼の手紙など、身近な事例を組み込んだ課題を課す。 ・ ホワイトボードミーティングの手法を取り入れ、表現力の育成を図る。		評価 A	次年度における改善事項 ・図書委員の活動として、中学生による小学生への絵本の読み聞かせを定期的に行い、表現力の育成に努める。 ・学校行事や各授業で、いろんな形式で発表する機会を設けることで、自分の考えや気持ちを表現する力を養う。 ・記述式の問題を解くポイントなどを指導し、小テストや定期テストに取り入れ、書くことに慣れさせる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	落ち着いた学習態度で、ノーチャイム、2分前着席もできている。また、自主学習ノートや宿題プリントなどの課題にもまじめに取り組むことができ、提出率もよい。	・ 学習に主体的に取り組む、自らの疑問点を積極的に解決していこうとする意欲を持つことができる。 ・ 学校や家庭における、学習習慣を身につけている。	・ 家庭学習が 1年生は2時間、2年生は3時間、3年生は4時間確保し、生活習慣アンケートでチェックする。	・ 定期テストの前に課題を提出させる。定期的に質問教室を開く。	・週2回、QAタイムを開き、生徒からの質問を受けたり、わからないところを克服できるように補充学習を行った。 ・英検受験率90%を達成することができた。	・1年間の平均家庭学習時間は、1年生が2.3時間、2年生が3時間、3年生が4.5時間という結果になり、目標を達成できた。
課題	わからない問題や難しい課題において、すぐにあきらめてしまうところがあり、白紙回答にしてしまう生徒もみられる。 また、家庭学習の定着が不十分である。	・ ICTやデジタル教科書などを利用し、生徒のレベルに応じて「わかる」喜びを感じさせる。 ・ 「授業の約束」を明示して授業に集中させ、また、家庭学習の手引きを活用し自主的に学習できる環境をつくる。 ・ 英検や漢検などの各種検定を積極的にチャレンジさせる。	・ 2週間に1回、教師による質問教室を開き生徒の疑問を解消させる。 ・ よく学習している生徒の取り組みを学年だよりなどで紹介し努力を賞賛する。 ・ 英検、漢検の受験率80%をめざす。		評価 B	次年度における改善事項 ・漢検の受験数が少ないので、受験率80%を目指す。 ・英検の受験者率90%とし、より高い級の受験を目指す。 ・引き続き、定期的に家庭学習アンケートを行い、家庭学習の定着、テストに向けての学習意識を高める。

平成30年度 学力向上ロードマップ

